



編集 福井県日独友好親善協会

発行 平成 22 年 6 月 1 日

発行 不定期

責任 中山 茂雄

FREUNDE (友人)

友好協定締結 10 周年記念式典特集

栗田幸雄福井県国際交流協会長を団長とする 19 名の訪独団は、2009 年 10 月 31 日にヴィンゼン市におき、「福井県およびハールブルク郡・ヴィンゼン市 (ルーエ) 友好協定締結 10 周年記念式典」に出席してきました。式典の進行と出席者の概要は、次のとおりです。

<p>日時: 2009 年 10 月 31 日</p> <p>場所: ジーバース・ゲストハウス(ホープテ)</p> <p>11:00 開会</p> <p>11:15 挨拶 ヴィンゼン市長 ボーデ氏 ハールブルク郡長 ボルト氏 日独友好親善協会訪問団長栗田氏 独日協会会長 カットナー氏挨拶</p> <p>12:15 午餐会 バンド演奏(青年グループ・ウッドイズ・サウンド)</p> <p>13:15 体操およびダンス披露 (ガーハイデ児童器械体操クラブボルステルおよびパテンセン連合児童体操クラブ)</p> <p>13:30 デザート&コーヒータイム バンド演奏(ウッドイズ・サウンド)</p> <p>14:30 閉会</p>	<p>友好協定 10 周年記念式典参加者</p> <p>ドイツサイド出席者:</p> <p>ハールブルク郡長 ヨアヒム・ボルト氏 ヴィンゼン市長 アンゲリカ・ボーデ氏 前市長および前独日協会会長 ボド・ベッケドルフ氏 元ハールブルク郡長 アーレンス氏 元ヴィンゼン市長および名誉市民 シュレーダー氏 郡議会議員および市議員 各 1 名づつ</p> <p>在ハンプルク総領事 成宮清介氏 ヴィンゼン独日協会会長 ヴェルナー・カットナー氏 ヴィンゼン独日協会副会長 アンドレア・レンツ氏 ヴィンゼン独日協会書記 マンフレッド・ヒラー氏 ヴィンゼン独日協会理事 ブーカー氏、クランメ氏、ディットマン氏 その他独日協会会員およびハールブルク郡民 総勢約 60 名</p> <p>日本サイド出席者:</p> <p>福井県日独友好親善訪問団長 栗田幸雄氏 福井県日独友好親善協会会員ほか 総勢 19 名</p>
---	--

Deutschland und Japan rücken enger zusammen

Zehn Jahre offizielle Freundschaft zwischen Fukui, Winsen und Landkreis

Von Mathias Hainke

Hoopte, 9900 Kilometer trennen Winsen von der Präfektur Fukui. Seit Mitte der 70er-Jahre

hat sich diese Distanz verringert - so fühlt es sich zumindest an. Damals nahmen Winsener Familien erstmals im Rahmen des Internationalen Jugend-schiffs junge Japaner als Gäste

auf. Seit 1999 ist die Freundschaft offiziell. Damit liegt die Unterzeichnung des Freundschaftsabkommens zwischen der Präfektur Fukui, dem Landkreis Harburg und der Stadt

Winsen zehn Jahre zurück. Das Jubiläum feierten am Sonntag Vertreter der Stadt und des Kreises, der Deutsch-japanischen Gesellschaft (DJG) sowie Gäste aus Japan in Sievers Gasthaus in Hoopte - bei fruchtigen Cocktails und Musik von Woody's Sound.

Hauptperson des Tages war Yukio Kurita, der ehemalige Gouverneur der Präfektur. Landrat Joachim Bordt, Bürgermeisterin Angelika Bode und Werner Kattner, Vorsitzender der DJG, lobten sein Engagement der vergangenen 50 Jahre. Er sei die „gute Seele der Partnerschaft“, fand Bordt die passenden Worte. Die Redner dankten auch Herbert Rohde, dem ehemaligen Vorsitzenden der DJG, der aus gesundheitlichen Gründen nicht an der Veranstaltung teilnehmen konnte. Damit auch die japanischen Gäste den Rednern folgen konnten, übersetzten Dolmetscher die Reden.



Der ehemalige Gouverneur Yukio Kurita trug sich in das Goldene Buch des Landkreises Harburg ein. Bodo Beckedorf schaute ihm über die Schulter. Fotos: hai



Landrat Joachim Bordt (rechts) überreichte Yukio Kurita einen ganzen Stapel von Autokennzeichen zum Jubiläum der deutsch-japanischen Freundschaft. Bürgermeisterin Angelika Bode amüsierte sich

schaffen entstanden in den vergangenen Jahren, auch auf wirtschaftlicher Ebene lernen Japane und Deutsche voneinander. Unter anderem Bäcker, Gärtner, Floristenmeister besuchten bereits das ferne östliche Land, um intensiv Erfahrungen auszutauschen. Angelika Bode überzeigte sich 2001 selbst von dem „wunderschönen Land mit vielen Sehenswürdigkeiten“.

Alle zwei bis drei Jahre unternimmt die DJG Gruppenreisen nach Fukui. Die nächste steht ehemalige Bürgermeister und damalige Vorsitzende der DJG, Bodo Beckedorf, tief den Austausch mit Schülern ins Leben. Alle drei Jahre besuchen 20 Gymnasiasten Japan. Der nächste Austausch ist für den Herbst 2010 geplant. Abschließend richtete Yukio Kurita seine Worte an die Zuhörer. Er lobte insbesondere die „wunderschöne Natur“ des Landkreises Harburg und kündigte an, die Beziehungen zwischen Deutschland und Japan

ヴィンゼン市長ボーデ氏スピーチ：

これまで、ヴィンゼン市と福井との交流関係 30 年以上に及び、この間、約 700 名の福井からの訪問を受けてきた。今もハールブルク郡、ヴィンゼン市民は、定期的に福井を訪れている。また、マイスターの派遣や高校生交流などの事業を通し、経済・教育分野での交流も行ってきた。今後もお互いにパートナーとして様々な分野での交流を期待している。

ハールブルク郡長ポルト氏スピーチ：

日本とドイツの間には 9 0 0 0 km という長い距離があるが、両国の交流は、この距離を越えて行われてきたものである。しかし、この距離も、昨今の経済交流や情報交流などを通じ短くなってきたように思われる。また、地球規模の人類愛や環境保護などを通じ、両国の距離は、今後もっと狭められていくことだろう。

カットナー氏スピーチ：

福井および郡・市との間に 1999 年に友好協定が締結されてからも、両国では互いに友好的な訪問が続けられてきた。今回は 2010 年に福井訪問を予定している。かつて定期的だった相互訪問も、残念ながらここ数年は停滞している。当時の独日協会長ベッケドルフ氏が口火を切った高校生の交流事業は、引き続き進められ、ハールブルク郡およびヴィンゼン市の支援を受けて、3 年毎に 24 名の高校生が引率の先生とともに福井を訪れてホームステイをしている。来年の秋にはまた、ヴィンゼンギムナジウムおよび職業学校の生徒達が福井を訪問する予定であり、引き続き郡と市からの援助をお願いしたい。若者同士の結びつきこそが両国の友好関係に大きく寄与すると考えている。

これまで、2 度、計 4 名のマイスターたちを福井に引率して訪れたが、両国のさらなる人材開発の可能性として、今後若いスポーツマンたちの交流を提案したい。昨年、日本からの若者をゲストとして迎え入れた。そのほか、お互いの特産品や産業交流など、経済的な交流の可能性にも期待したい。

現在の新しい活動として、アマチュア画家による絵を福井に送ったところである。今度は、福井からもアマチュア絵画を送ってもらい展示会を催したい。

今後も相互訪問、高校生交流、その他の活動を通じた互いの交流の発展を希望する。

また協会理事より作成された、過去十年の交流の歴史をたどる新聞記事、写真などをこの場に展示してあるので、ご覧頂きたい。

ヴィンゼンと旧東独の旅・思い出

訪独団に参加して

今回訪独の機会があり夫と共に参加させてもらった。娘がドイツに暮らしているので孫達に会えるのが 1 番の目的と思っていたので、連れて行ってもらうぐらいの安易な気持ちでいた。ビンゼン市との交流に関しては二人とも何の知識も語学力もなく、ただ驚きと発見の連続だった。ビンゼン市主催の交流会は大変盛大で日本人にとっても親切に丁寧に接して下さり、体操クラブの子供達の演技が可愛くて特に印象に残った。交流会の後、同席だったクラウス夫妻が、自宅まで案内して下さり、今まで交流した日本人らの写真やいろいろなものを見せてもらい親切心に感動した。しかし、とてもホームステイの自信はなくお断りするのも一苦労だった。さすがエコの先進国らしくゴミの再利用で作ったお庭もきれいにガーデニングされていた。クラウス夫妻の車でルーネバークという旧市街へ



ドライブに連れて行ってもらったが、言葉も分からない見ず知らずの人に、知らない土地でアウトバーンをひた走りの時は少し不思議な感覚になった。ルーネバークでは他の団員達と偶然出会って、みんなと喫茶店でお茶を飲んだり古い町並みを散策したりと楽しいはずなのだが、何しろ言葉の壁が分厚すぎて少し悲しいものもあった。しかし、体調が万全ではない夫とこんなに長旅をすることが出来ました。また、ドイツの名所旧跡をよく知っているガイドさんの丁寧な説明のおかげで楽しく観光できたこと等、今まで長年にわたり日独交流に携わってこられた皆さんのおかげです。私達の勉強不足も多いに反省しています。後の4日間は団とは離れて娘の家庭で過ごし2人で無事に帰国しました。お世話くださった訪独団の皆さん有難うございました。 漆崎 道子

ヴィンゼンの思い出



独日友好協会会員でヴィンゼンにお住まいのアンネさん・マンフレートご夫妻が私宅にお泊りいただいてから早、10年。以来、クリスマスカードとか時節のご挨拶とかで交流を暖めてきました。私たち夫婦も彼らにお会いしたく、今回の訪独団に思い切っ

て参加させていただきました。長い間待ち望んだアンネさん・マンフレートとの再会を歓びつつ、自宅にお招きいただき多に感謝。また、アンネ・マンフレートとの“火の灯かりの中での4人での、ゆったりとした楽しい落ち着いた夕食を共に出来たことは有難いことでした。食後の団欒では寛ぎ易い居間での彼らのルビー婚記念パーティの話。

それによると同、記念パーティは自宅で子供夫婦

や孫たちのお手伝いによる接待（ゲストへの心使い、生ビール係り、オードブル配りなど）で親しい友人を招待しての自前でのパーティをしたとのことなど。それから、アンネ・マンフレートのお住まいは6軒棟続きの静かで、清潔で、堅固で、質素だが時間的（建具・調度品など長期に耐えうる材質）、空間的（決して大きくはないけれど、ゆとりの在る）自由な間取りの室内づくりなどはとても住み心地が良かった。

生活自体もお二人が仲良く、それぞれ相手を思い、お互いの時間の共有をととても大切にしている感じが私には見受けられました。また当日、朝のヴィンゼンはすごく寒かったですがマンフレートとの街中散歩では私のイメージどおりの落ち着いた、清潔で静かで閑閑な佇まいのヴィンゼン市街がとても気に入りました。

ドイツでの生活ぶりの一端が垣間見られたことは私にとって、とても貴重で有意義な経験をさせて頂き、同行の皆さま方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからのヴィンゼン市と福井の国際交流が今後も益々、多に発展することを願っているこの頃です。

福住 篤・栄美子

独旅行の思い出

夫婦そろって独旅行できました事は、素敵な思い出と共に私達夫婦のこれからの人生に一つの大きな指針が与えられたように思います。私達はヒラーさん御夫妻に我家でホームステイしていただいた御縁でこの旅行に参加させていただきました。ヒラーさん御夫妻は35年も前から福井県民のホストファミリーをしていて下さり、私達は53人目の訪問者でした。居間においてあるノートには泊まった方の感謝のメッセージが残されていました。私達もその一ページに加えていただきました。ヒラーさんは私達と同世代の方なので定年後の暮らし方などとても学ぶ事が多かったように思います。私達、独は初めての旅でしたが経験豊富な皆様と御一緒させていただき、のんびりと楽しい旅行をさせていただきました。帰国後も写真交換会があり皆さんから写真を頂いたりまた、中山さん、岡田さんからアルバムやDVDをいただき見る度に独の思い出がよみがえります。

本当に感謝で一杯の旅でした。私達もこれからはヴィンゼン市と福井の国際交流に少しでもお役に立ちたいと願っているこの頃です。

佐藤 和義・孝子

ヴィンゼン訪独団に参加して

今回ヴィンゼン訪問に参加させて頂き、見聞を広めて来たいと思いました。

ドイツは2回目になりますが夏とは違った秋のドイツは黄金色、又、見るもの、聞くもの、すべてが新鮮でした。新参者の私ですが皆様方のお陰でホームステイ先では日本語の分かる家族にも恵まれました、楽しい2日間でした。

式典後、歓迎して下さった方々のお迎えを受けての散歩となりましたが、街並はどこを見ても、どっ



しりと落ち着いた感じでした。また古い物は大事に活用、保存し、外観はそのままでも内装の一部に手を加えることで本来の機能回復と快適性を得られるとのことのお言葉でした。

ほんの一部しか見ていませんがドイツの人は堅実な生活そのものなのか節電、自然環境とか、“物”の大切さをよく知っていてそれを上手に生かしていく姿勢に頭が下がりました。

又“ベルリンの壁”を見ることが出来ました”負の歴史“と言われる展示を目にしたとき、どこの国であっても二度と繰り返されぬよう私達はこれを「過去のもの」とわせずにこれからどのように進むべきか考えていく必要があると思いました。

“平和と自由を伝える街、崩壊から20年のドイツ”とどこかで読んだ記憶が有りますが・・・

ホームステイの家族や私達に手を貸して下さった方々、その人達には暗い影など微塵もなく、むしろ、陽気？どの人に対しても暖かく接してくれる、あのやさしさはどこから来るのだろうかと思いました。

言葉の壁は有りましたが、お互いに充分感じ取って下さったと思います。やさしさ、暖かさ、心の広さ、私も見習いたいと思いました。いつかまた、懐かしくなって出掛けてみたくなるようなそんな幸福な旅でした。

有難うございました。

竹中 恒

楽しかったホームステイ

福井県日独友好親善協会の訪独は今回で三回目ですが、それぞれに季節が違うので、毎回新たな感銘を受けました。そしてその都度、全くドイツ語が喋れないのに、厚かましくもホームステイをさせて頂きました。今回のホームステイ先は幼い男の子供さんが二人もいらっしゃる家庭でしたが家族全員で優しく迎えてくださり、現代のドイツの一般家庭を少し見せて頂いた感じです。上の子供さんは六歳ですがシャイで恥ずかしがり屋のため、カメラを向けると逃げ出して、一緒に写真に納まることはありませんでした。下の子供さんは三歳で、人懐っこくて夜は一緒に寝たかったと、泣きべそをかき、朝早くから私たちの部屋に来て、あれやこれやと遊んだり、一緒に行動したりしました。

何より嬉しかったのは奥様の日本語が素晴しかった事、そして複雑な会話を少しでもお互いが分かち合うことが出来たことです。また、以前にホームステイさせて頂いた方や私宅に来て下さった方たちとの交流会場での言葉は不十分でも身振り手振りで変わらぬ優しさで迎えてくださり、心を通い合えた親近さが忘れられません。十月三十一日がハローウィンで、夜になると近所の

子供さんが独自の服装で提灯を下げて各家々を回ることに遭遇できたことも忘れられない思い出となりました。可愛かったな・・・。

次回が有るかどうかは分かりませんが貴重な体験ができたことを嬉しく思い、写真やスケジュール表をみるたびに思い出しています。

寺元 外茂子

訪独の想いで

この度ヴィンゼン訪問のお誘いを受け、思いがけない事なので驚きと同時に期待で一杯でした。その日まで未知の国を想っているうちに出発の日を迎えました。2009年10月30日ルフトハンザ航空にて、長いフライトの末、ヴィンゼンには夜の8時ごろに到着しました。当シュトヒネホテルはヴィンゼンでただ一つのホテルで、コウノトリの巣という意味だそうです。

再会したヒラーご夫妻たちホストファミリーの方々の熱烈な歓迎を受け、私の心は高ぶっていました。さらに、

翌日の公式行事では、ハールブルク郡長やヴィンゼン市長から 10 周年を記念して温かいお言葉を頂き感激もひとしおでした。又、子供たちが人形のような可愛いスタイルで色々パフォーマンスを披露し、レベルの高さに感動しました。

その後、ヒラー家で夕食をご馳走になり、ウタ婦人が酢漬けキャベツの甘煮など代表的なドイツ料理の数々を作ってくださいました。又、畑ではブラックベリー等を栽培されており、日本庭園には鹿威しなどがあり、日本びいきの様子が伝わります。部屋もシンプルでおしゃれな感覚にあふれて、ドイツ女性のすばらしさに触れた思いがしました。

今回ドイツでの思い出は数限りありますが、4 日目に訪れたベルリンの壁博物館が強く印象に残りました。奇しくも私たちが訪れたのは、壁崩壊から 20 周年に当たる年で、まさしく 11 月 9 日の 1 週間前の日だったのです。

博物館の展示品からは、東ドイツ市民の当時の様子や苦悩が生々しく伝わってきて胸が痛みました。192 名の死亡者、いろんな方法で壁を通過して生き延びた人は 5000 人を超えるそうです。

一例を挙げると、地下を掘り進んだ人、バイクのエンジンを改造し軽飛行機を作った人、または境界線上に有る建物から飛び降りようとした人が、銃撃され東側に落ちたため、救出が出来なかった話など、現実にはまだまだ悲惨な脱出悲話がありました。

過去に報道等を通じて「壁崩壊」や「東西ドイツ統一」について見聞きはしていましたが、現地に佇み修復した壁の一部を見るにつけ、ここに紛れも無く悲しい歴史があったことを改めて思い、戦争の愚かさを痛感しました。又、後日ベルリンでブッシュ、ゴルバチョフ、コールの 3 人が再会した折り、この中でゴルバチョフは「壁崩壊は政治家ではなく、国民が英雄だった」と語ったそうです。まさしく市民の歓喜と感動が原動力となり、驚異的なスピードで統一を果たしたと思います。最後に、今回の訪独にあたり貴重な経験をさせて頂きましたこと、日独協会や関係者の方々に改めてお礼申し上げます。

小林 和子



思い出のドイツの旅

県日独協会によるヴィンゼン訪問とゲーテ街道を巡る旅、つい先ほどのことのように鮮明に思い出されます。その後皆様お変わりございませんか。

あの旅で特に印象に残るのは、ヴィンゼンで一般家庭に泊めていただき、主婦の目線で日常生活の様子をうかがい知ることが出来たことです。私は以前にもドイツの友人宅で 10 日間寝食を共にし、彼らの合理的

で堅実でそれでいてゆったりと満ち足りた暮らしぶりを目のあたりにし感心もし、うらやましくも思いましたが、今回改めてそのことを再確認しました。今回訪問したお宅もそうでしたが、家は 100 年 200 年と住み継がれ、機能的に改築され、全館暖房が行き届き、常に清潔に整理整頓されています。私ども夫婦がお世話になったお宅はバスタブ付のバスルームが 3 ケ所、シャワーだけ備わった部屋が 3 箇所あり使わせていただいた部屋は、ホテルそのものの機能が備わった広くて素敵なお部屋でした。

ここはゲストルームかと伺うと奥様が「私の部屋よ」と言っていました。あちらの方は友人を招くとひととおりの家の中を全部案内するらしく、今回も私をそうやって案内して下さい、部屋数の多さとお風呂の多さに驚きました。しっかりビデオを撮ってきました。また、公園かと勘違いするほど広い庭。ブランコ、滑り台、トランポリンなどの遊具があり、そこには高いポールが立っていて、その日は我々を歓迎し、日の丸の旗が掲げられていました。心憎いばかりの気配りにただ感心するばかりでした。歓迎式典では郡長、市長はじめ大勢の方々が出席され歓迎のお言葉、その後のアトラクションと、最大限の歓迎をしていただいたのではないのでしょうか。光栄なことと心から感謝しました。

旅の後半、ゲーテ街道を巡る旅は、以前行ったことのあるところも何ヶ所かありましたが、15 年前とそれほど変わっておらず、街道を巡る車窓からは色付いた森や林、野や畑の牧歌的で自然豊かな風景が目を楽しませてくれました。また、ビールやワイン、食べ物がおいしかったことも旅の楽しみを倍加させました。

いつか再びドイツを、ヴィンゼンを訪問したい気持ちで一杯です。このような素敵な旅を皆様と共有できたこと本当に幸せでした。いつかまたご一緒出来たら嬉しいです。

岡田 幸子

訪独の思い出

2005年3月に日独友好協定5周年記念式典には娘と2人で参加したが、今回の10周年の式典には、小学1年になった娘も引き連れ、親子3人での参加となった。前は100年に1度の寒さという中、現地でも色々な打ち合わせが多く、まだ2歳の娘には過酷な行程であったが、今回はまさに10周年を祝う華々しい記念式典となり、楽しみ多い訪独となった。とりわけドイツサイドの出席者は、現職はもとより友好協定締結のこれまでの立役者総出の顔見世となり、「さすが10周年！」と唸らずにはいられなかった。宴会では、この地方独特の素朴でボリュームたっぷりの郷土料理に、娘も食欲旺盛に舌鼓を打った。(地元紙にも掲載されたように、地元の青年バンド演奏や児童体操クラブによるパフォーマンスもかわいらしく宴を大いに盛り上げてくれた。)

今回は、カットナー協会長宅でホームステイさせて頂き、ご婚約者とともに、楽しい時間を過ごさせて頂いた。とりわけヴィンゼン市内の散歩途中のいたるところにあった「遊べるモニュメント」には娘も大喜びで、こうしたものが福井にもあればどんなに素敵かと思われた。さらに、ハンブルク市の鉄道博物館では、精巧につくられた鉄道模型のほか、建物や人物のミニチュアが世界各地を表していたが、子供のみならず、多くの大人の来館者が見られ、ドイツ人の鉄道模型好きを再認識した。また、入館するには50分ほど待たされたが、80分待ちもあるとのことで、ハンブルクは都会であることを今更ながら思い知らされた。こうした都会からほんの40分弱にあるヴィンゼン市の自然豊かな風景を改めて羨ましく思いながら、心暖かい人々のおもてなしに感謝し、再会を誓ってこの地を去った。

村田 幸子



「遊べるモニュメント」



ウィンドウにはXマスの雰囲気がありました

ドイツ・ヴィンゼン市との交流絵画展

福井県とドイツのニーダーザクセン州にあるヴィンゼン市とは、1999年10月に友好協定を締結し、市民訪問団や高校生の相互派遣などを通して、交流を深めてきました。

このたび、交流の一環として、ヴィンゼン市在住のアマチュア画家の皆さんによる絵画約30点を展示します。

ドイツ人女性が描く色彩豊かな絵画を、ぜひご鑑賞ください！

期 間 平成22年7月22日から26日

場 所 県立図書館エントランスホール

主催は県日独友好親善協会です。

